

鹿児島市コミュニティビジョン推進戦略会議第13回会議 会議概要

【開催日時】 平成26年6月6日（金）10時～12時

【場 所】 鹿児島市役所 別館4階 第二委員会室

【出席者】

○委員：石田尾委員長、籠原委員、神野委員、北方委員、迫田委員、清水委員、
新留委員、末満委員、永山委員、藤井委員、文城委員、松田委員、南委員、
山田委員

（欠席：岩橋委員）

○事務局：幾留市民局長、瀬戸口市民文化部長、平田地域振興課長、
益田地域振興課主幹 ほか

【会次第】

1. 開会

2. 報告事項

(1) 第12回会議について

3. 協議事項

(1) モデル事業段階Ⅱ「設立から地域コミュニティプラン策定まで」の検証・評価
について

(2) モデル事業段階Ⅲ「地域コミュニティプランに基づく活動」の検証・評価項目
について

(3) 26年度コミュニティビジョン推進の取組について（27年度からの順次設立に
向けて）

4. その他

【会議の内容】

1. 開会

幾留市民局長よりあいさつ

2. 報告事項

(1) 第12回会議について

・【資料1】により事務局説明

・【質疑なし】

3. 協議事項

(1) モデル事業段階Ⅱ「設立から地域コミュニティプラン策定まで」の検証・評価
について

①【資料2】により事務局説明

・【質疑なし】

②モデル事業段階Ⅱ－区分1「プラン策定のための現状把握」の検証・評価作業

※各モデル地域の事情等を含む部分については、A校区等としている。なお、A校区としている箇所全てが同じ地域とは限らない。

○委員

・この前の会議で、3モデル地域の会長さん、市から説明をいただいたが、非常に大変だと思った。私は西陵校区に住んでいるのだが、特に、A校区の場合は大きい。多くの人たちが住んでいる中、協議会を設立したことは評価したいと思う。そこで、プラン策定のための現状把握にあたり、市の助言、相談対応が適切であったかという点について、私は、市からの説明を聞いて、コーディネーターの役割の大事さというのをつくづく感じたところである。いよいよ、私たちの西陵校区でも取り組もうと、私は各協議に積極的に参加している。2番目に、設置段階での細部にわたっての指導の重要性を感じた。

○委員

・地域が主体にという共通理解の下に進められているが、市当局とモデル地域との連携が非常に密になされていると感じた。これは素晴らしいことだと思う。それから、私の校区もこれからやるわけだが、参考にしたいのが非常にたくさんあった。若者と語る会、町内会ごとの説明会、構成団体全体によるプラン策定だとか。実現可能かどうか分からないが、拡大期に向けて考えてみた。1つ言えるのは、高校生、大学生、20代の若い人たちの実態を捉えられないだろうかと思う。もう1つは、住民アンケートの調査用紙が各戸1部であったのではないかという感じがする。そうすると、男性の方からの要望とか、女性の方からの要望というのが、どれだけ吸い上げられるかなという感じがしたので、うちでは各戸2部配布しようかなとか思うところであった。これは男性用ですよ、これは女性用ですよとすれば、広がるのかなという気もする。それから、調査項目に何々をしてもらいたい、これが欲しいというのが、どうだろうと感じた。実態を調べるのに致し方ないのかとは思っている。うちの町内会でも調べたのだが、私はこれならできます。こういうことならできますという調査項目もあっていいのかなという気がした。これはそれぞれが考えることだろうと思うが、いずれにしろ、連携が非常に上手く取れて、順調に地域課題が抽出されたのではないかと思う。

○委員

・この会の度に、市は3モデル地域に対してどのような手を打たれたかを聞いてきた。とにかく、設立検討前、そして準備委員会、設立総会開催まで地域からいろんな課題が出されたと思うが、それらに対し、市が丁寧に具体的に説明をされたと感じた。その結果、地域もその目的や内容等を十分理解されたのではないかと考えている。その過程は非常に良かったのではないかと感じる。また、地域は課題解決のため、市のいろいろな説明を受けたわけだが、その目的とか内容について共通理解を図りながら、設立総会を迎え、3つとももう運営をしている。その運営の中で大きな課題もなく進んでいるということは、地域が取った対応、市からの対応も良かったのではないかと考えている。

○委員

・先程と重複するが、内容検討の区分に5年先を見据えてと書いてある。私もこの若者

と語る会というのは良いと思い、目を引いたのだが、それであれば、役員の年齢構成や平均年齢が何歳くらいなのかという情報が我々も欲しい。5年先ですから。成人学級とか、今はもう成人学級じゃないという話を聞く。60, 70を超えた方が成人学級に参加されているという話を聞く。校区公民館の役員にしてもそうだと思う。その辺の把握が必要なのではないかと思う。それと、市の検証・評価について、A校区では2回説明会を開催され、合計80名参加されている。B校区とC校区では合同の研修会を開いて、参加は98名であった。地域住民が参加されたのはその2つしかない。あとは全部、専門部会であったり役員会である。1つ段階が進んだとしても、住民説明会としては不足しているのではないかと思う。2地域で98名であれば浸透しているとは思えない。その方がまたボトムダウンしていけば情報も入るだろうが、今の段階で難しいとは思いますが、もう少し手法があるのではないかと感じた。

○委員

- ・すごく良くできているなというをまず思う。これだけのエネルギーを使われて本当にすごいなと改めて感心した。その上でだが、アンケート項目を作っていくというのは、いくつかの方法がある中で、地域の現状を掴むために重要な役割を果たしているに見える。A校区とB校区では市の説明を受けてアンケート項目を決めるのに2回で決まっている。それに対しC校区は6, 7回の会議を持っている。これが、どういう意味を持つのかというのが気になっている。地域が主体的に地域の実情を掴むときに、地域独自のアンケート項目の設定に2回で足りたのだろうかというのが、最初の疑問。アンケート作りをするとき、みんなの意見を集めながら項目を作る仕組みがあると、地域独特のアンケートが作られると思う。今後拡大していくときには、その辺も頭に入れて考えていってはどうかと思う。

○委員

- ・市からの指導が徹底しているのが分かる。アンケートの中身が多いのにも驚いた。これを読んで地域の人が答えていくのにはすごいエネルギーを使うなと感じた。これをまた、実践するとなると、班長さんが配って、また回収に行く。誰は居なかったとかが実際にはあると思う。昼間いない人、夜いない人もいる。この3地域はすごく頑張ったと思う。自分たちはできるかなという疑問を持ち始めている。地域独自のといふこなので、アンケートは取らないといけないと思うが、項目を作るのは策定委員がしているようだが、この人たちは有無を言わず、「作るんだよ、しましょね。」としたのかと感じた。他にも、いま校区公民館運営審議会の場合は商業関係などは入っていないが、協議会を設立したとき、そういう人たちへの連絡が大変そうだなとも思った。

○委員

- ・3モデル地域の直近の状況はどうか。老人クラブは鹿児島市内に339の単老があり、それぞれ町内会にも入っている。そして、老人クラブからも協議会への積極的な参加を進めていくわけだが、桜ヶ丘などでは反対との声が私のところに聞こえてくる。3モデル地域のごく最近の状況を知りたい。

○委員

- ・アンケートを出したり、回収してまとめるなどの煩雑さを、どう我々がまとめていく

かと思う。人数の少ない地域であれば割りとしやすいと思う。班長さんをはじめ、部長さんなどが積極的に進めてくれるだろうかと考えている。今のところ、校区公民館運営審議会ですいろいろ話し合い、地域振興課からも何回かきてもらって取組を進めているが、煮え切らないところが、町内会長の意見である。「町内会に入っていない人はどうするか。会費を納めていない。」ということを使う。地域では町連協があり、それでも喧々囂々で中々理解ができないでいると言っている。そういった生の声をどう考えているか、事務局に聞きたい。今年、来年でなんとか仕上げたいと考えて努力しているが、そういった声をどう考え、どう指導しているか聞かせてほしい。

●事務局

- ・後ほど26年度のスケジュールでも説明したいと思っていたが、いま現在、校区公民館運営審議会を中心に回っているが、まだ回りきれていない審議会もある。こういったところは、上期においては全て回っていききたい。いま話のあった地域も何回か伺っており、既に説明をした校区においては、その地域の中心的役割を担っている団体、いまあった町内会連合会などの有無や、各種団体の活動状況などをうかがっているところである。昨晩うかがったところでも、町内会未加入の人たちのための行事ということで、校区で実施をした場合に、これまでの審議会では町内会からの負担も合わせて活動に使っていたが、未加入者からは負担がないのに、そういった人たちのためへの活動も支援するのかという質問があった。新しい組織になったときは、地域をあげて活動をしてくださいとお願いをしたが、そこらは地域のみなさんと話を詰めて、協議をしていかないといけない部分ではないかと思っている。例えば、スポーツ大会をするにしても保険をかけるという話も出たが、町内会加入者は一定の負担をされているので、大会前に手続きを取ることで、もし事故があった時は対応できる。しかし、入っていない人は負担をしていない。そういった人たちの分も加入者からの負担で賄っていくのかというような課題も出てくる。設立に向けてより詳細な準備作業の中で、話をさせていただき、より良い方向に、進めていただければと思っている。ただ、協議会を設立することによって、町内会加入率が上がるわけではなく、地域に未加入者がいれば、そういった方への働きかけも含めて協議会活動として取組を進めていただきたいと考えている。そこも大きな課題になってくる。地域における事情の情報収集もやっているが、これがという決め手となる説明はできないが、参考となる取組状況については、うかがった際に案内したいと思っている。地域の生の声というのはそういった状況にある。

○委員

- ・話を元に戻す。プラン策定のためのという中で、市は一生懸命働き掛けをして、その度に地域から上がってくる課題は、3地域それぞれ違ったと思う。その中でコーディネーターのすごい努力があり、ここにプランはほとんど同じような形態でできあがっていると感じた。それぞれの地域によって部会の数が違ったりというのは適切な助言があったのだと思う。A校区からは会長と会ったのでカラー刷りの物ももらった。これで見るとまたすごいと思った。これだけ言葉にして、これだけの表ができあがるというのはすごいと思う。いま平たく地域住民の末端までいっていないという話があったが、当然だと思う。まず、上層部の方で作り上げたいというのがすごいと思う。下から

意見を全部くみ上げてここまで持っていくというのだと、1, 2年じゃ無理だと思う。これからみんなの活力というところを見いだして行くという点では、現状の中で素晴らしいものができたのかなと感じている。私も同じ地域であり、町内会長さんたちは本当に反対しているが、やはり今、地域を見直す時期にきている。情報化社会の中で、未加入者の増える中で、見直す時期にきているということをみんなで意識し合う意味では、アンケートもそういう意味では重要だと思う。集約していくのは大変だと思うが、ここまで作り上げられた。私たちがするときも、一から地域を見直すためにアンケートを取った方が良いよねというところから始めないといけないと思う。ここまできて止めるというわけにはいかないと思うので、前向きに促していく市の努力と、私たちも進めていかないとと思っている。

○委員

・町内会を意識付けるのも大事だと思うが、まず校区公民館運営審議会がいかにかこれについて理解し、やろうという盛り上げというか、審議委員が燃えることによって町内会へおろしていくという方法もあるかなと思う。私の校区でもやっていけるのかなと思いつつ審議会に入っている。小学校では遠泳をやっている。指導をする親御さん方が一生懸命するあのパワーをどうにかできないかと考えている。我々がいくら頑張っても、若い力をもらわないと、若い人たちは底力がある。親父の会なども引き出せないかなと考えているが、まずは、審議会をいかにか燃えさせるかが、鍵じゃないかなと思う。私は民生委員の立場もある。民生委員は50地区ある。50地区の会長さん方もやはり審議会に入っているのだから、その力もまた、地域におろせるのかなと思う。私の校区だとどうかなといつも悩んでいるが、市の力ももらいながら何とかしていかないとと思う。

○委員

・アンケートにこだわって言う。もっと簡単なアンケートでも良いと思う。自分が住んでいるまちがどうあって欲しいですかという、1ページでできるくらいの簡単なアンケートにしても良いと思う。また、モデル地域でも子供たちに夢を描かせているが、私も青少年健全育成大会でこんなのをしたいと思った。子供がどんなまちであって欲しいという夢を持たせるコミュニティ。そして、地域主体と言っても、地域住民みんなが知って、関心を持ち、みんなが協議会を盛り上げていこうとなるのは大変なことだと思う。今、校区公民館運営審議会を知っている人はわずかしかない。成人学級と言っても、「そういうのがあるの。それは何。」という人がいる。知らなくても審議会がする行事にはみんな参加して、地域は一応維持されているので、協議会も全町民が知り尽くすというのは難しいと思う。もう見切り発車でもいいのではと思ったりする。このアンケートを見て怖くなった。これをするのは大変じゃないかと思った。いま悩んでいるところである。

○委員

・アンケートは各地域独自に作っていいんですよね。また、もし、地域に住んでいる人全員が、協議会を作って頑張りましょうなんてなったら、ちょっと気持ち悪いことになる。やっぱり、住み良いまちにしたいよねっていう中核があって、その中核が元気であって、それが少しずつ裾野が広がっていくと考えてもいい。その裾野を広げるた

めに、例えばアンケートを取るなら、もうちょっと相談してみようという幅を地域ごとに作るとすれば、見切り発車でいいのかなと私も思う。

○委員

- ・青少年健全育成大会というのはみなさん興味を持ってくれる。それを突破口にしてもいいのかなと思う。このまちづくりが子供にどういう意味を与えるのかを持ち込みながら話していく。集まる人間は300から400いるので。そして、こういうものなのかというのが浸透すれば、アンケートを回収するのにもいいのかなと思っている。毎年7月にしているので、そういうところから流しながら、あまり大上段に構えずに、いいまちにするにはどうすればというようなのをつつきながら、みなさんの意見を上げて、審議会に反映させ、そうすれば、審議委員も自分の組織に持ち帰ってくれる、そういうつもりで、大上段に構えずに動こうと思っている。

○委員

- ・結局、校区公民館運営審議会が難しく考えすぎている。審議会がすると言えば、ほとんどの地域がすることになる。審議会にいかにやわらげた話をするか。市がどのように審議会に説明するか。役所的な言葉を使わずに、市民とのふれあいという柔らかい表現を用いた説明が必要。

○委員

- ・全体的に考えすぎるからそうなるのであって、なんか1つをやってみようで突破口ができるという思いでいる。

○委員

- ・この4月で審議委員のメンバーチェンジが多い。私の校区でも半数近い人が新人。この審議委員だけを説得すればスムーズにいくと思っているが、新しい人たちは知らない。町内会の役員会で聞いたら地域コミュニティ協議会という言葉を知らない。市職員も県職員も知らない人がいる。審議委員をとにかく説得すること。モデルだったから難しいのではないか。少し簡略化してもいいのではと思う。

◎委員長

- ・それぞれの検証・評価内容に枝葉が付いて、いま幹をどうするかという本筋に帰していきたいと思うが、私の方で少し整理すると、1つは地域コミュニティ協議会が設立されるためには、モデルとなる指針がないといけないということで、モデル事業を導入している。それは規模も違うし、地域特性も違うし、高齢化率なども全部違う3地域をピックアップして、やれるかどうかという1つの大きな社会的な実験である。それを始めてみたら、それぞれが知恵を出して、アンケートを独自に取られたり、地域の実態にあった内容を作成したりして、かなりの時間をかけて、今の形まで取り組んできたというのは事実であり、我々も確認しているところである。同時に、そこに行くまでに、市のコーディネーターの努力があり、キャッチボールを何十回もやっている。そういう中で、概形が出てきたところだと思う。私たちが確認したいのは、モデル事業については、市と地域住民との連携、それから地域課題の抽出は大枠で、出てきたのではないかなと思う。そこで、これからの時代は、かつての町内会とか、校区公民館運営審議会だけの議題内容だけではなく、非常に変化の激しい地域社会の問題に対応していくためには、新しい考え方や仕組み、組織が必要になるという認識

が、この中の過程で出てきたのではないかと思う。そういうところから、みなさんの意見を集約すると、課題が出てきているから、課題解決をどうするかということにならなければならない。そして、課題を解決するためには、既存の組織だけで本当に十分なのかどうか。また、高齢化率がこれだけ上がっているのに、その高齢化している人たちだけの考えで本当に解決ができるのだろうか、あるいは、若い世代の力を入れるべきだとか、あるいは、みんながもっと参加しやすい組織を作れないかということも出てきた。それは当然、独自のアンケートの中に出てきたと思う。今日とても良いヒントが出たのは、子供たちの目から見たまちづくりという構想。つまり、次の世代の人たちに今の既存の組織がどう対応できるのかという視点が課題としてある。町内会、審議会だけではない、新たに広域化した地域に対応していくための組織としての協議会のあり方を推進していく必要があるというところは十分にくみ取られているのではないかと思う。それをどう実現するのかというところで、この地域コミュニティプランがある。そこで、区分1プラン策定のための現状把握についてはある程度意見が出てきたと思うので、次の区分2プラン内容検討・策定、区分3運営・活動、4推進体制まで含め、今後の拡大期に向けてどういったことを大事に取り組んでいかなければならないのかということ、合わせて意見をいただきたいと思う。

③モデル事業段階Ⅱ－区分2「プラン内容検討・策定」、区分3「運営・活動」、
区分4「推進体制」の検証・評価作業

○委員

- ・少しうかがいたい。3モデル地域でそれぞれ事務局を設けて動いているが、その方たちは賃金に見合うだけの就労時間の中で収まったのか。個人差、地域によって労力の差があると思うが、事務局がいろんなことを習得して、仕事を果たすための時間数は適当であったのかというのは、コーディネーター、市当局はどう見ているか。

●事務局

- ・3モデル地域の事務局職員については、雇用に係る経費に対し年間50万円を上限に補助をしている。今あったように、従事時間に見合った額になっているのかどうかについては、25年度は特にプランを策定しているが、何もかも事務局職員に集中してくるということはいけないので、そういったことがないように、部会を中心として、協議をする、資料を作る、日程を調整するというのが主な業務であったと思うが、パソコン操作についてはエクセル・ワードの研修をしたり、職員、コーディネーターがうかがった時に情報提供をしたりという形は取ってきたが、25年度の業務ということで考えると非常に厳しい状況であった。もう1点、委員への報酬についてだが、市からの補助の金額は活動に使うことになっているので、人件費、役員手当という形では使用していただかない。ただ、地域から町内会等を通して活動費が上がってくるので、その一部を協議の中で額を決定して、協議会として提供されている。一律的に3つの校区が同じではなく、事業規模、町内会等からの活動の支援、また、属されている組織による。町内会長として、いろんな団体の長として参加している人については、それぞれの組織で代表者としての手当を支給されている場合もあるので、そういった

ことは私たちの方からどうするのが適切ということは申し上げていない。単価を具体的に上げると、3地域それぞれであると認識している。

○委員

- ・生涯学習課から校区公民館運営審議会に11万円いただくが、協議会に移ったらそれはカットですよ。

●事務局

- ・活動費については基本11万円と委員へは出会手当があり、それをまとめると50万円くらいになる。それは協議会では活動に使っていただくということで、地域振興課から補助をしている。なので、11万円規模の事業プラス町内会からの負担で事業をされてきたところ、11万円が50万円に変わる。ただ、委員への手当は町内会等から活動費としてもらう中から支出をする、振り替えるという形になるということ。

○委員

- ・プラン策定のプロセスについてだが、非常に良くできている。組織ができて、部門ごとに問題をつかまえて、それを寄せ集め、部門間の調整も図り、どこがプランを決めるかという責任所在がかなり明確になっていたと思う。これは、今後やっていくときに、どういう形でどこが責任を持って決めるのかということには役に立っていくと思う。それから、ものすごく立派なプランができたので、こんなのできたよって、これをみんなに見せると、気圧されちゃってできなくなる可能性があると思うので、地域の実情に合わせながら、例示をする場合は、慎重に構えた方がいいかなと思う。そして、今の事務局の話だが、プランを作るプロセスでは事務局が大きな役割を果たしていると思う。特にA校区の検証・評価では、「アンケート調査の結果と各部会での検討結果を基に、事務局で作成し、役員会で協議したプラン案」とあったので、事務局でプラン案まで準備するということになる。事務局員の研修の中身から相当詰めておかなければならないと思う。ただ3つを見比べると、役員会とか係の方がすごくしっかりしていたので、そこでかなりのプランを作られたのかなとも思った。職員の研修内容というのは、プランを作るプロセスにおいて重要な意味を持っている。ただ、プランを作ってしまうと、実施をしていく中では、事務局員の役割はまた少しずつ変わってくると思う。なので、段階ごとに研修は考えていかないといけないと思う。それからやはり、事務局員の人件費問題。どうするのかは気になった。ずっと続けていく上で、事務局員の経費をどう捻出するかは各地域で大きなテーマになるのではと思った。

○委員

- ・人件費は心配。事務局を置くということだが、この補助金は出てこないのか。協議会の予算の中で捻出するということか。

●事務局

- ・3モデル地域への補助については、25年度で言えば、3地域ともおよそ150万円規模となっている。そのうち50万円については事務局職員の雇用に係る補助。人件費として使えるのはこの分。それから、さらに50万円についてはプラン策定に係る経費、備品購入の経費として50万円。それから、これまで校区公民館運営審議会で行ってきた事業を実施されるということで残りの50万円規模。審議会では、従前から町内会等から活動のためにもらっていたお金が基本あるので、だいたい200

万円から250万円くらいの予算で25年度は事業をされてきた。

○委員

- ・私たちの校区では、以前は審議委員が30人いたが、負担が大変だからと20人にした。だが、これではやっていけないということで、20人は生涯学習課からの出会手当、他は各種団体連絡協議会から同額を補助しようとなった。その方が上手くいく。市からの補助には限りがある。そういう組織があれば幾らか出せるが、ないところは厳しいのかなと思う。ただ、校区公民館運営審議会の主事は大変で、教頭先生がやっけていてもすごく大変だから一般の人にさせなさいとなった。もちろんその人も大変である。私はあいご会長もしているが、学校あいご主事が全部ひとまとめで一番苦労している。そういうことで、この協議会でも、事務局職員が相当優秀でないといけないし、負担が非常に大きく、役割分担は難しいと思う。補助員を地域の判断で置いて、その人件費については、また別としておかないとも思う。これはまだモデルの段階なので再考もされるし、良い方向に向かっていけばと思う。

◎委員長

- ・ひと通り意見をもらったと思う。戦略会議としてのモデル事業段階Ⅱの検証・評価作業については、事務局の方で集約をして、次回の会議で確認ということとしたい。

(2) モデル事業段階Ⅲ「地域コミュニティプランに基づく活動」の検証・評価項目について

- ・【資料4】により事務局説明

◎委員長

- ・事務局から説明を受けた。検証・評価項目について何か、質問、意見等はあるか。

○委員

- ・地域の方の検証・評価について、もう活動を総括できるだけのことをやったのだろうかかと疑問に思った。この項目で検証可能なのだろうか。最初、市民局長のあいさつにあったように、こういうコミュニティづくりをしないといけないという新しい段階での取組ということを見ると、プランを進めながら、今まで地域づくりに参加されなかった方が、どれくらい輪の中に入ってきたのだろうかという視点は欠かせないのではないかと思う。そういう項目がどこかにあった方がいいのではないか。

○委員

- ・市の項目の中に、関係課間の調整という言葉がある。調整というのはどう捉えたらいいのか。私は安心安全ネットワーク会議でモデル校区もやっているのだが、その中で、幼稚園、保育園というところが中々乗ってくれないので、こういうことで声掛けがあった場合には参加していただくような通知文のようなを出してもらうわけにはいかないだろうかという相談をしたところだが、そういった中で、調整という言葉がどうかと思った。モデル地域はもうやっているもので、それを周知して、地域の各機関へも流してもらうことも、市の取組の部分だと思うので、そういったところが、調整という言葉ではどうかと思ったところである。

●事務局

- ・この表現については、各段階でこういった表現を使っているが、情報共有についてはご案内のとおりだが、関係課間の調整というのは、校区公民館運営審議会から協議会へ移行する際の補助のあり方をどうするのかとか、モデル地域では、安心安全ネットワークや青パトの補助については地域振興課からの補助に上乘せして交付しているが、今後進めるにあたって、関係課との間でいろんな業務の調整などが出てくるだろうと思う。そういったことが含まれる。

◎委員長

- ・委員は、先ほどの、これまで参加されてこなかった住民への取組について、私案はおもちゃか。

○委員

- ・パッと思い付いたものなので具体的な提案はない。ただ、前の段階で評価をするときに、「協議会の設立で、団体間の情報共有が進んで、従来の地域づくりに参加されてこなかった層の参加を引き出す効果があった」という評価があったと思う。これはどういう評価項目であったかは分からなかったが、どこかの1項目に、どれだけ輪が広がったかという総括をしてもらったらいいのではないかという意味である。

○委員

- ・地域の項目の方だが、「実施した事業について、効果や反省点、意見等をまとめ、事業の改善に生かすことができたか。」とあるが、これは、年に1回するのは改善できないのではないか。2ヶ月に1回というのであればできるが、これは、次への課題を見つけられたかという評価になるのではないか。

●事務局

- ・年間様々な事業を実施されている。確かに委員の言うように、年1回の大きな事業などもあると思う。その場合は、この期間内に、細かな効果、反省点、意見等のまとめというところまでは難しい部分もあると思う。プランの策定が25年度で、26年度の今、プランに基づく取組を進めている。次回、各会長さんがたにお集まりいただき、これまでの取組状況はいかがかと問いかけても、4、5、6、7月までの取組状況としてどうなのかが出てくる。期間としてはたしかに短い。この検証・評価は27年度からの拡大に向けて一定の作業をみなさん方をお願いをしており、10月くらいにはまとめをしたいと思っているが、それ以降も現在進行形であるので、事業等については取組状況を報告し意見をもらいたいと思っている。検証・評価作業については、準備から設立というところが、26年度の下期から27年度にかけて入ってくるので、そこでの取扱にも役立てていきたいと思っているので、プランに基づく活動というのは引き続き状況報告と合わせて、みなさんから意見をもらいたいと思っている。

○委員

- ・前の方と関係あるが、プランを作ったり、アンケートの集約をしていかないといけないが、そのためには、啓発活動をいかにするかが一番大きな問題だと思う。具体的に言うと、校区公民館運営審議会の計画の中にも必ず入れている。総務部会で企画委員会的なものを立ち上げ、その中にも入れている。そして、審議委員がどう理解するかが大事だと思う。その委員が地域に帰ったら啓発をしてほしい。そうでないと、中々

行き渡らない。町内会の総会等で取り上げてほしいということで進めている。

◎委員長

- ・各委員から意見をいただいた。この、段階Ⅲ「地域コミュニティプランに基づく活動」検証・評価シートの項目案について、決定的に不足している項目があるのかというと、今あった意見は説明の段取りを工夫する必要はあると理解する。項目以外のものが必要かどうかということについては原案どおりでよいか。

○各委員

- ・はい。

◎委員長

- ・では、この案については承認するというにしたい。周知徹底だったり、確認作業については、今の意見を参考にしながら、情報の共有化や認識を進めていってほしい。

(3) 26年度コミュニティビジョン推進の取組について（27年度からの順次設立に向けて）

- ・【資料5】により事務局説明

◎委員長

- ・事務局から説明をいただいた。何か質問はあるか。

○委員

- ・校区社協、あいご会、老人クラブ、民児協、衛生連等の総会等の機会を捉えて説明を行うとあるが、これは市役所の方からいつあるかというのを調べるのか、それとも各校区が情報収集をするのか。

●事務局

- ・校区社協等については総会等の機会を捉えてということで、関係団体に、総会あるいは役員等の会がある際は、教えていただけないかと依頼をした。先日、老人クラブの方にもうかがって、説明した。昨日は民児協の役員さん方がお集まりだったので、こういう取組を進めていると若干説明をさせていただいた。それから、その他の、衛生連、社協等についても、主だった方々が集まる日程等をうかがい、こちらか説明を行うという取組である。

○委員

- ・10月に希望調査をして、設立するというのが20より多くなったときはどうするか。

●事務局

- ・27年度から30年度を目途ということで、平均するとだいたい年に20校区となる。先に設立したいという校区が20を超えた場合、これは、それぞれの校区の希望であるので、積極的に支援をしていきたいと思っている。ただ、予算的なものはあるので、私たちとしても設立に向けた要求をしていきたいと思っている。あまりにも多いとどうかと思われるかもしれないが、いま現在コーディネーターは6人体制になっている。昨年までは1人のコーディネーターが3モデル地域の支援をしていたが、5人増え、6人体制になった。上期においては、地域振興課の所管で研修や校区公民館運営審議

会への説明や意見交換に同行するという事で、地域の実情への理解も少しずつ理解を深めているところである。27年度以降はこのコーディネーターが地域に直接入って行って、職員と一緒に、設立に向けたより具体的な協議を進めていければと思っている。

○委員

- ・では、27年度に設立したいという校区については、コーディネーターが10月以降貼り付けてもらえるということになるわけですね。それと、設立準備資金というようなのはあるか。

●事務局

- ・これは、モデル地域の場合はなかった。基本的な考え方は校区公民館運営審議会を移行していただくので、審議会の中で協議を進めていただいた。町内会等への周知については、町内会の負担もあったかと思うが、27年度以降の設立準備については、周知広報を含めて検討していきたい。

○委員

- ・この前きていた調査用紙について。我々の校区では、地域振興課から何度かきてもらっているが、書いて出すのか。

●事務局

- ・その件については、既に説明をさせていただいた校区に、今後の取組を進めるにあたって、地域の中心的役割を担っている組織の具体的な状況をうかがいたいというのが1つ、それから、各種団体の活動状況などもうかがいたいと考えている。既に説明をした校区については、うかがいたいので都合のいい日程を知らせてほしいと通知しているところである。

◎委員長

- ・事務局においては、いただいた意見に適宜対応してもらいたいと思う。

4. その他

◎委員長

- ・本日予定していた、議題はこれで全てである。もう少し時間があるので、言い漏らした事、ご意見などを出していただいて締めとしたい。

○委員

- ・私の地域で協議会を立ち上げる際の参考となる事業を見つけた。町内会活性化事業というのを組み込んでいた。町内会長は町内会をなんとかしてくれと言うが、協議会の課題として取り組んでいけばいいと宣伝ができそうである。また、町内会未加入者からも町内会費に相当する金額を徴収している地域があるので、全市に協議会ができると、これを市内全域に広げていくきっかけになるなどと思っている。

○委員

- ・私の住んでいる地区でも、マンションが建つ。そこの住人は、子供はいるが、町内会にはあまり関心がないという傾向にある。また、シャッター街が目立つ。この2点をなんとかクリアできるようなアイデアがこの地域コミュニティプランから得られるの

ではないかと感じている。

○委員

・委員のみなさん、市当局の努力で3協議会の運営が上手く進んでいるようである。私も、市の町内会連合会でも説明をいただいた。今度の17日に市の校区社協でもまた、説明をいただく予定である。その他、いろんな役をしていて、よく聞かれるので説明はしている。当初の頃と比べると、反対する意見は少なくなってきた。そして、過激な反対もなくなってきた。細かな分野についての反対はある。こうして、市が音頭を取っている。あとはそのコミュニティで運営をしていくわけだが、市が主導で引っ張っていくのが自分たちの負担になるのではと心配しているところもあるようである。その辺を、十分に説明していってもらえればと思う。

○委員

・私の校区は昨年、校区公民館運営審議会で、今年になって各種団体連絡協議会でと2つの団体で説明会を開いてもらった。今年は新年度になってからであって、役員さんが変わっていた。何のことかさっぱり分からないと言う。できれば一年以内で年度をまたがないように説明をしていくと浸透していくのかと思う。それと、私はまちづくりワークショップの会長をしているが、立ち上げの時に、地域の課題を見つけて何とかしましようというテーマであった。しかし、8校区あって、全体の課題というのは非常に難しい。今度の協議会は校区で見つけるので、これが充実してくれば、ワークショップそのものの存在はなくてもいいのかなとも思う。いつも委員から聞かれる。いつまであるんですかと。本年度あるが、来年度はもうなくなるかもしれない。協議会ができたなら、その時点でなくなるのかもしれないが、全体を見渡した広域の課題というのは非常に難しいと思う。それぞれの課題でしかないのかなと思っているところである。

○委員

・十分な説明を受けた後で、逆に質問が多くなった。難しくなって、現状のままでいいんじゃないかという声が大きくなってきている。ちゃんとやれているんじゃないかと。町内会も上手く動いているしと。現状をなぜ壊すのかという意見が結構多い。だから、現状を壊すのではなく、角度を変えて、子供に対してのいいまち、子供が喜ぶまちという方向に持っていこうと一生懸命やっているところである。それなら動くけど、現状はこのままでいい。町内会はしっかり固めているからと。その固い意思をどう弱めていったらいいかという現状である。でも、しないといけない、するべきだという仲間も増えつつあるし、PTAの若い人たちにも良さを分かってもらいながら、下から突き上げていける活動というように持っていこうと計画している。

○委員

・さきほどあった、事務局職員への研修というのは非常に大事だと思う。

○委員

・地域の課題というのはいろいろあるが、今年からコーディネーターが6名に増えたということなので、フルに活動していただいて、私の校区でも何回か呼んで、細かな具体的なものに取り組んで、30年度までには済ませないということだが、その前にできるようない努力していきたいと思っている。

○委員

- ・私の校区では町内会の未加入が多い。校区として、どう見ていったらいいのかということ町内会長さん方にも意識を持ってもらって進めていくというのが、私の課題なのかと思っている。そういう意味ではいろんな人たちを巻き込んで、地域に参画させていく機会だと捉えて、それを言葉として出していかなければならないと思っているので、形から先に作ってというのも考えたりするところである。

○委員

- ・私の校区の場合は校区公民館運営審議委員長が、「いけんとな、どげんすればよかとな。」ということ、よく投げかけられるので、その辺の理解をどうしていくのかが私の課題だと思うし、もし自分でそういうのを立ち上げますよと言ったときに、私がどの程度できるかな、市の力を相当もらわなきゃできないし、早くしないと、設立準備をする地域がいっぱい出てきて指導も忙しくなってしまうのかなという心配もしているところである。

○委員

- ・ちょっと古い審議委員の人たちが今、また新しい人たちもきたから説明を聞こうかという空気があるので、ちょっと望みが出てきたかなと思っている。今までは、説明を聞こうと言っても、もういいが、という人もいたが、そういう空気が少しずつ出てきている。やはり空気である。周りからの空気。他の人たちからも、しないといけなみたいだよというのが聞こえてくれば、しそうな気がする。地域主体なので、自分たちのところのしたいようにすればいいというものもあるかもしれないが、リーダー的な人がいて、やっていかないととなるとまた大変なので、やはり市からの指導をもらわないといけない。地域振興課にお願いするしかないなということを感じている。

○委員

- ・今月の25日、うちの新任の会長会を10時からする。課長さんか誰かきて説明をしてほしい。新任の会長48名である。お願いします。

○委員

- ・この会に参加させていただいて、モデル地域の方々の努力や、それに対する市のアドバイスや指導の努力を聞いて、私はすごく勉強になっている。そこに、自分の校区の審議会に参加すると、なんと掛け離れた状況なんだろうと感ずるところで、課題を課題と思っていない人たちや、自分の個人的な問題が大きかったりする人たちや、自分の今の立ち位置がどうなるんだろうという人もいる。私も、この会議に入り、どういふことなんだろうと勉強をさせてもらう中で、本当に必要なことだと分かるようになった。町内会が単独で課題を解決するというのではなく、校区の中で、人材発掘というのも含めて、取り組む必要があるんじゃないかということ、みんなが理解できれば、課題を見つけつつ前向きに検討していける、いかないといけないというのを改めて感じている。

○委員

- ・自分の経験から言うと、子供が小さいときは学校とつながって、あいご会やスポーツ少年団などがあつた。子供が卒業しちゃうと関係が切れる。町内会には入っていたので、役員などもした。今はもう卒業したのでしていないが、自分の年齢によって地域

との関わり方には随分違いがあるんだなというのが実感としてある。地域全体で言えば、私のように卒業したのもいれば、今から参入したりする人もいたりの年齢構成で地域社会はできあがっている。これを、コントロールタワーとなる協議会がどういうふうにつかむかというのが重要だなと改めて思った。それから、私みたいに何にも関わっていない人間が結構いる。これをどうやって引っ張り出すのかなというのを思う。自分が逆に引っ張りだす側に回らないといけないんだろうなと受け止めている。少しずつ、もう1回地域社会とのつながりの現役に戻るかなという思いがある。そのときに、留意したいと思うのが、例えば、運動会ありますよと言っても、私は参加してもできないことがないよねってなってしまう。ボールを転がしてビンを倒すというのは恥ずかしくて中々できない。それと、何か問題があった時のために地域社会がコミュニティを作って付き合うということとを、どう結びつけるかというのはもう少し考えた方がいいと思っている。例えば、何か災害があった時に、協議会を作っていたことがどう役に立つかということをもう少し具体的に考える。お祭りを保存したり、仲良くするためにコミュニティは役立っているんだけど、何かあった時にはどういう形で役に立てるのか。ということの問題ごとに整理して考えてみたいと思っている。

◎委員長

・毎回各委員からの意見が前に進んでいる。時には2歩下って、また前に進んで、より戻しをしながら。私は、それは非常に大事だと思っている。疑問が出るから、前と後ろの議論が、つじつまが合ったり合わなかったりしながら、確認作業をしている。そして、協議会の設立がなぜ鹿児島市に必要なのかということを見ると、社会経済環境の変化のスピードが私たちが町内会を作った時代と明らかに違う早さで展開している。高齢化率にしても、男女共同参画にしても、日本でワーストである。鹿児島県は。そういうふうに見ていくとこれからの新しい組織に期待するのは、住民がいろんな意味でバリアがなく参加できる仕組み、組織。町内会、老人会、あいご会というのは関わりがあるときは一生懸命するが、オフになったときどうなるかということ。会社人間は会社をやめた途端に社会人間にひっくり返る。そのときに地域の関わりがほとんどない人たちが地域の役員をする。だからいろんな課題も見えてくる。校区公民館運営審議会にしても、これが認知されるまでに20年の歳月が掛かっている。いま我々が議論している協議会は、薩摩川内市が県下では早く立ち上げたが、まだわずかの時間である。そこを鹿児島市は鹿児島市の地域特性に合わせて、私たちの生活の豊かさをどう享受していくかということにかかっている。いま一番しんどい時であるが、ここは乗り切らなきゃならない試練だと思う。最初から、ちょんちょんちょんで、さあ行きましようというわけには中々いかないというのが分かったというのは大収穫だと思う。それと同時にできることは何かというのを我々が提案していくのも大事である。全部やろうというのは中々難しい話であるが、共通の課題をこの協議会で取り組んで前進させていこうというのは、既存の組織にうける提案の仕方だと思う。各組織ではなく、新しい組織の中で動いていくことを、従来の組織を否定していくのではなく、もう少しパワーアップしていくために協議会が必要なのだということの説得の仕方を求めていくべきではないかと思う。それと、これからの時代は、長く人生を生きていく時代に対応した提案の仕方というのを考えていくべきではないかと思う。これだけ、

少子高齢化が進んでいる。今日も、老人クラブとしての意見、子供の視点で考えたいという意見が出た。これは切り口として大事である。高齢者にしても、子供たちにしても、そこに関わる人たち、学校教育者も、企業なども入ることが大事だと思う。それから、町内会というのはそこに住んでいる人たちが中心であるが、その地域で企業を営んでいる人たちも含めた、地域全体をどうしていくかという新しい取組がこれからは求められてくると思う。つまり、地域に住んでいる人だけではなく、地域に関わりを持っている人たち。それが、この協議会の大きな推進力になっていくと思う。内輪の人が内輪だけの問題を見ている時代から、内輪の人が外からの知恵も借りて、交流の地場を作り、地域の課題をみんなの力で、協働で取り組んでいくのが協議会に求められていると思う。今日みなさんからいただいた意見は事務局で精査をしていただくが、3モデル地域の事例を、これから設立していく地域はどこが一番参考になるのかということをご自己検証しながら市と連携を取っていくのが大事だと思う。そういう意味で、事務局が問題点を整理して私たちにぶつけてとやっているのだから、これは貴重な資料だと思う。そこで、やさしく説明できるようなシナリオはやはり自分たちで作るべき。資料をそのまま使おうとするから難しくなるのであって、地域にあった自分たちの言葉でシナリオを作っていくのが大事だと思う。その突破口が、いま求められていると思っている。次回の会議では、今日いただいた意見を事務局はまた精査して、まとめていただき、委員にフィードバックして新しい取組に寄与できる形で還元していただきたいと考えている。それでは、本日本日予定していた事項は全て審議いただいた。事務局にお返しする。